

クローズアップ インタビュー



瑞宝単光章受章者 **中川 肇氏** (76歳)

主な略歴

昭和26年7月 県警察学校入校
昭和26年12月 半田署勤務
昭和51年3月 西尾署勤務
昭和53年3月 昭和署勤務
平成2年3月 東海署警部にて退職

平成18年秋の叙勲の発表があり、高浜市内から中川肇さん(呉竹町二丁目在住)が長年警察官として、地域の安全に貢献されたことを評価され、瑞宝単光章を受章されました。中川さんのインタビューを紹介します。

受章の感想

第一報は県警察本部からの電話でした。受話器の向こうから「瑞宝単光章が決まりました」という声が飛び込んできた瞬間、39年の警察官としての人生の労が報われたと思えば嬉しく感じました。支えてくれた妻とともに皇居宮殿で、天皇陛下の拝謁の栄誉に浴すことができ感激の一言であります。

仕事について

◆きっかけ

父親も警察官でした。私は6人兄弟の長男で、父の後姿を見ながら育ってきましたが、父が5歳の若さで亡くなり、自分も警察官の道に進むことを決心しました。

◆危険な業務

事件発生直後の混乱模様の中先陣を切った活動がほとんどで、常に危険と背中合わせでしたが長期大過なく職務が全うでき、本当に良かったと思います。

特に妻には、駐在所勤務だったころに留守をあずかり1人で凶器を持った訪問者に対応するなど幾多の苦勞をかけてしまいました。**◆警察官として**

地域に密着した「住民の中の警

察」として、事件事故の処理、犯罪予防活動、困りごと相談など多岐な活動ができ充実しております。趣味の囲碁は、地域住民との潤滑的な役割を果たし、良好な人間関係を維持することができました。

◆苦勞と誇り

鮮明に記憶として残っている事は、60年安保闘争と伊勢湾台風です。職務上、長期間家に帰ることができませんでした。治安の維持に当たる者としては当然の事です。特に伊勢湾台風ときは、家族の安否を気づかいながら仕事をすることは忘れられません。

父も駐在所に勤務したことがあり、私の転居と合わせると合計20回の転居を経験したことは、今となってはいい思い出となりました。仕事を通じて、多くの人と触れ合い、信頼し合えたことを誇りに思っています。

これからの思い

勲章を頂けたことは、私を支えてくれた家族や仲間など多くの人々のおかげだと感謝し、これまでの経験を生かし、安全安心なまちづくりに貢献したいと思います。